

研究主題

就学前教育と小学校教育の連携 ～学びの連続性、育ちの連続性を目指して～

I 研究について

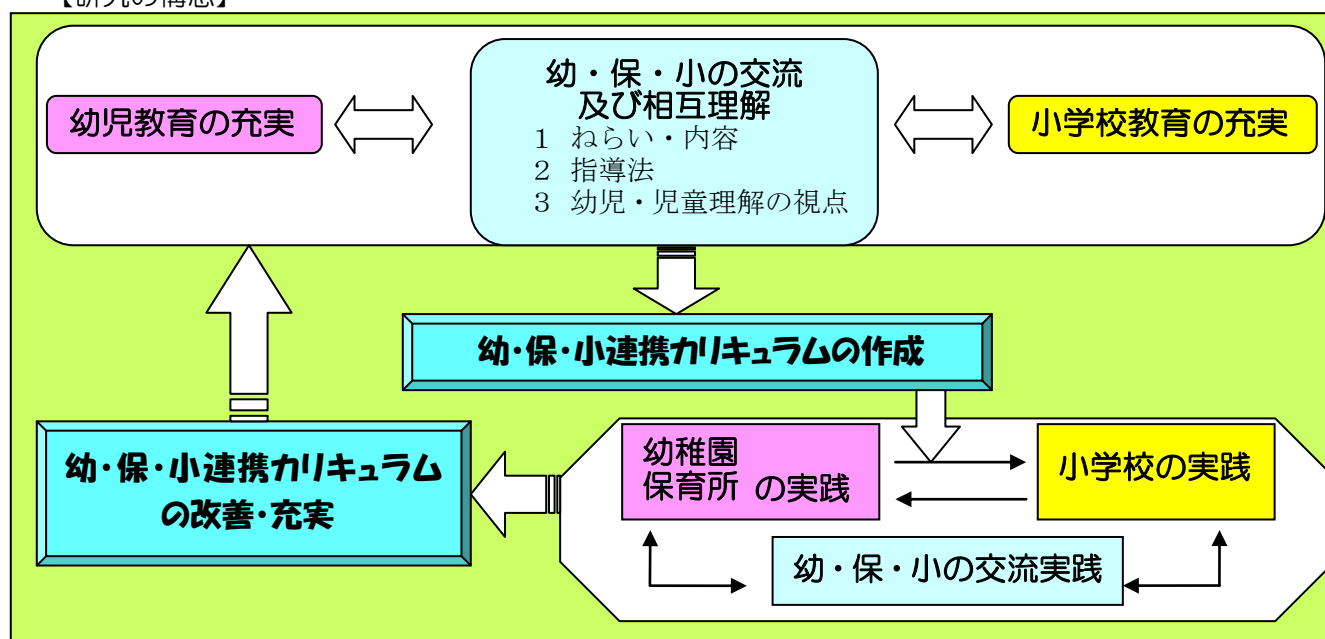
1 研究の概要

【主題設定の理由】

幼稚園、保育所の一元化や就学前教育の充実、幼児教育から小学校教育への滑らかな接続を行うためのスタートカリキュラムの重要性が言われている。日野市では、これまでも幼・小連携教育を市の重点施策として掲げ、平成18年度に「ひのっ子就学前コアカリキュラム」、19年度に「小学校入門期ひのっ子タイム」を作成し、幼・小における教員同士の連携を図ってきた。その目的は、ひのっ子がどの園を修了しても幼児期に必要なことを共通に身に付け、個性や能力を伸ばしながら小学校教育へと滑らかに接続できることである。「遊びを通して学ぶ幼児期の教育活動」から「教科学習が中心の小学校以降の教育活動」へ、小学校への接続期に焦点を当て研究を進めてきた。

小学校学習指導要領や幼稚園教育要領の改訂、さらに保育所保育指針の改定を受け、幼稚園・保育所・小学校の三者の連携は一層必要になっている。本市においても「日野市学校教育基本構想」の中に、「保・幼・小・中が連携した一貫した教育の充実」が基本方針として位置付けられている。すでに第七幼稚園とあさひがおか保育園が活用している「幼稚園カリキュラム」と本市で広く活用されている「ひのっ子就学前コアカリキュラム」があることから、この二つを整理し、幼稚園と保育所のカリキュラムを統合した効果的なカリキュラムを作成しようとする機運が高まってきた。以上のことから、幼稚園、保育所、小学校の教員で幼・保・小連携教育推進委員会を構成し、就学前教育と小学校教育との一層効果的な連携を目指し、学びの連続性、育ちの連続性を踏まえたカリキュラムの作成に取り組んだ。

【研究の構想】



2 研究のねらいと方法

【研究のねらい】

日野市の子供たちは、幼稚園、保育所や家庭などにおいて、様々な経験を積み重ねながら就学を迎える。小学校教育へ移行する子供たちの学びや育ちを、さらに豊かなつながりにするためには、これまでに作成した「ひのっ子就学前コアカリキュラム」の対象を広げ、幼・保・小の保育者、教員が互いの保育内容や教育内容について広く情報を交換し合い、相互の連携を深めることが必要であると考えた。

0歳からの発達特性を踏まえ、活動内容を整理することで、日野市の子供として就学までに育てておきたいことや経験の大枠を共通にすることができる。その経験や学びを土台に、「ひのっ子就学前コアカリキュラム」や小学校入門期のスタートカリキュラム「ひのっ子タイム」を見直し、指導方法や配慮点などを分かりやすく記した新たなカリキュラムを作成することで、子供の育ちや学びについて見通しをもち、それぞれの教育機関で子供の成長を支えていくことができると考えた。

本研究では、乳幼児からの発達特性を押さえ、幼稚園・保育所などで過ごす子供たちが、就学前にどのような経験や学びを積み重ねていけばよいかを検討する。そして、「遊びの中での興味や関心に沿った活動」から「教科等を中心とした学習」へ移行することを踏まえ、幼児期から小学校入門期へ向かう幼児の経験や学びを、どのようにつないでいけば、入学時の段差が適当なものとなるかを検討し、幼稚園・保育所・小学校において、広く活用できるカリキュラムを作成することをねらいとした。

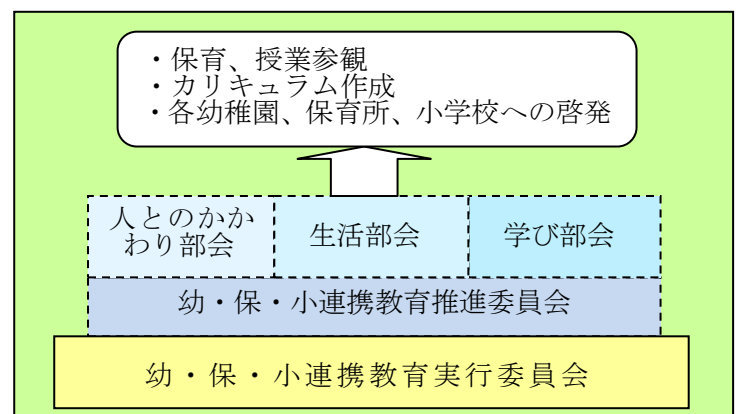
【方法】

○幼稚園・保育所の保育や小学校の授業を参観し合い、協議会の話し合いを通して、それぞれの教育のシステムの違いや入学時の段差について理解を深める。

○乳幼児期からの発達特性を押さえ、就学前に積み重ねたい経験や学びを整理し、接続期の移行を滑らかにするため、人とのかかわり、生活、学びの3つの観点から「ひのっ子カリキュラム」を作成する。

○幼稚園・保育所において、育てたい子供の姿を押さえ、子供の力をはぐくむ活動内容を充実させるために、活動事例を提案し、実際に見られた子供の姿を紹介する。

○幼児教育を土台にして接続期の移行を滑らかにするため、小学校入門期のスタートカリキュラム「ひのっ子タイム」に幼児期の経験や学び、接続を踏まえた指導の工夫を加えるなどの見直しや改善を行う。また、入門期の期間を広げ、指導の見通しがもてるよう活動例を増やす。



3 研究の内容

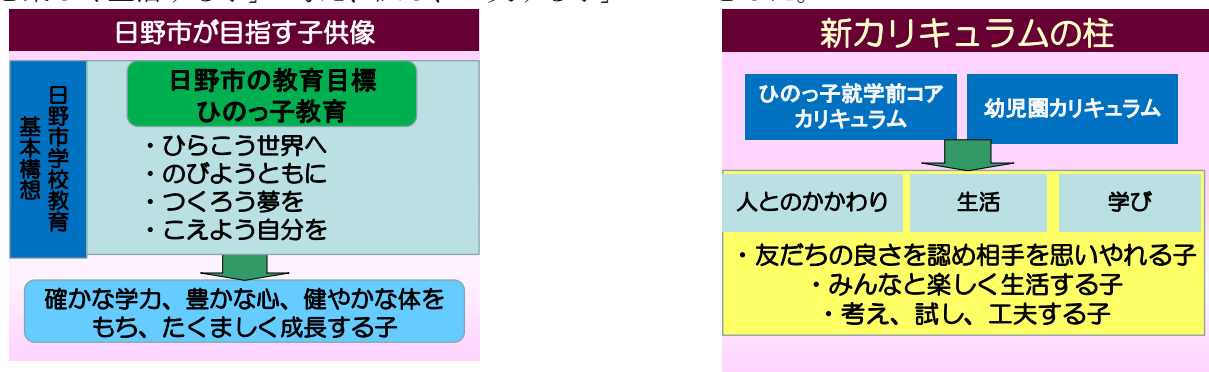
【研究の内容】

各年齢の発達特徴を押さえ、日野市内の子供が保育所であっても幼稚園であっても、同じように質の高い保育内容で健やかに育つための基本となるとともに、小学校生活への滑らかな接続を目指すカリキュラムを作成する。

【日野市が目指す子供像とカリキュラムの柱】

新しいカリキュラムの作成にあたり、日野市が作成している学校教育基本構想を基に、日野市が目指す子供像を「確かな学力、豊かな心、健やかな体を持ち、たくましく成長する子」とした。

そして、幼児教育から小学校教育への接続をみていく観点を、「人とのかかわり」「生活」「学び」の3つの柱にし、日野市で育てたい幼児像を「友だちの良さを認め、相手を思いやれる子」「みんなと楽しく生活する子」「考え、試し、工夫する子」の3つとした。



【カリキュラム作成の基本的な考え】

- ・0歳から年齢ごとの発達と活動内容を整理して表し、就学までに育てておきたいことや経験の大枠を共通にする。
- ・0歳から小学校入学までの「育ち」をしっかりとほぐくむことを土台にし、特に3歳からは多様な経験を積み重ね、幼児の学びを豊かにする。
- ・子供の発達の道筋を押さえ、保育所で3歳児までに経験してきた内容を整理して表すことにより、幼稚園から入園した子供の経験を補完することができるカリキュラムとする。

【学びの連続性、育ちの連続性について】

(1) 学びの連続性

学びについては大きく「興味・関心」と「表現」の2つのカテゴリーに分けた。

次いで、興味・関心を「運動」、「自然・科学」、「数・形」、「言葉」の4つに、表現を「表現遊び」、「造形」、「音楽」の3つに分けて、定義した。

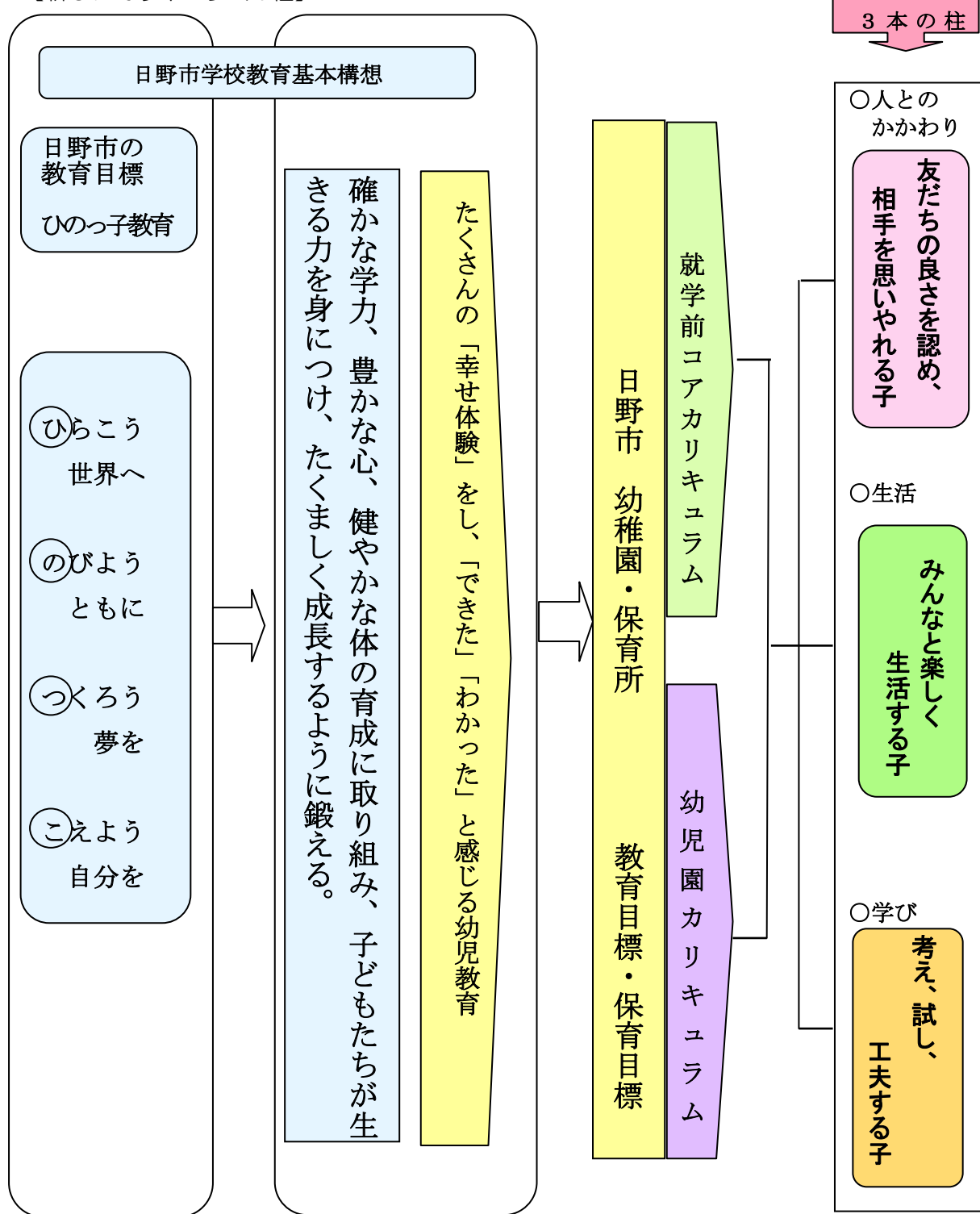
運動は、「幼稚園教育要領」「保育所保育指針」の「健康」の領域であるが、全身を使って活動することにより体を動かす楽しさを味わい、体を大切にする気持ちが育つように、興味・関心に位置付けた。

言葉については、文字への関心、言葉で表現したり、聞こうとしたりする意欲や態度の面から、興味・関心のところに位置付け、目指す子供像とそのための実践事例、入門期の指導計画を作成した。

(2) 育ちの連続性

育ちについて大きく2つのカテゴリー（人とのかかわり、生活）に分けた。さらに、「人とのかかわり」を「コミュニケーション（自己表現）（受容）」、「共同・協同」の2つ、「生活」を「基本的生活習慣」、「規範意識」の2つのカテゴリーに分けて、目指す子供像と実践事例、入門期の指導計画を作成した。

【新しいカリキュラムの柱】



【カリキュラムの構成】

- (1) 目指す子供の姿とそうした子供をはぐくむ活動例の一覧表（0歳～小学校入門期）
- (2) 0歳から5歳までの活動事例
- (3) 接続期のスタートカリキュラム（2週間の週ごとの学習指導計画と学習指導案）